

特集
おもしろ
研究・先生Ⅱ

私の研究の原点は……「鉄腕アトム」

初めて手にしたパソコンは自分でプログラムを組まないと動いてくれない「電子計算機」でした

三重大学教育学部・教授
奥村 晴彦 Okumura, Haruhiko
[URL] <http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/>



Q. 奥村先生は、情報に関わる方達から「情報の神様」と尊敬されておられるそうですね

A. (奥村) さあ、そんなことはないんじゃないですか。

奥村先生は、三重県は言うに及ばず日本を代表する「情報」の研究者の一人なんだよ。
先生が手がけた著書・訳書・論文、また、講演など

奥村:「たくさんありすぎて、管理できていません」

もう一つ大きな活動として、オープンソース運動。なかでも文書制作ソフトTeX(テフ)の普及活動に大きな功績を残されています。

奥村:「中が見えない商品ソフトより、中身をオープンにしたオープンソースのソフトが大好きで、その立場でたくさんの本を書きました。」

Q. コンピュータを専門にされたきっかけは?

A. 皆さんは、漫画の「鉄腕アトム」をご存知ですか。当時、子供たちはテレビの前に釘付けとなり、その人気は大変なもので、もちろん、私もその一人。コンピュータの魅力に取りつかれた、今の私の原点となっています。

※「鉄腕アトム」
昭和30年代に手塚治虫氏が、21世紀の未来社会を描いた漫画で、主人公のアトムは考えたり感じたりできる「電子頭脳」を持つロボット。

Q. 世界中で有名になった「データ圧縮ソフトLHAの技術」の考案とは?

A. 1980年代にやっとパソコン通信というものができましたが通信速度が遅く、大きなデータを送ろうとすると、時間と費用がとてまかかりました。そこで、私は、データを小さく縮める研究を始め、考案したのがLHAのデータ圧縮技術です。

LHAのデータ圧縮技術は海外でも有名になり、日本ではテレビや車だけでなく圧縮技術でもアメリカを追いこすのと言われてたこともあったんだって?!

奥村先生が執筆した「C言語による最新アルゴリズム事典」という本は「情報のバイブル」とも呼ばれ、ロングセラーになり、最近、石田晴久先生(東大名誉教授)たちがまとめられた「コンピュータの名著・古典100冊」にも選ばれました。

Q. 最後に現在、取り組んでおられる、活動についてお話し下さい

A. 2003年から、高校で教科「情報」が必修となり、その教育を受けた高校生が今年大学生に。しかし、まだまだ、情報の勉強とはWindowsやWordの使い方を学ぶものだと思われがちです。中身の見えないソフトの操作学習ではなく、情報を科学的にとらえ、考える教育が根付くことを目指して情報教育を改善するための活動をしています。

また、教育学部と総合情報処理センターの教授、高等教育創造開発センター教育情報システム部門長を兼務しており、e-Learningソフト「Moodle(ムードル)」(これもオープンソースです)の普及に力を尽くしています。

「『こんなことができる?』と頼まれると、ついつい何でも自分でやっちゃうんですよ。おかげで、机の上は、仕事や資料が、山積みです。」と、やさしい笑顔がとても印象的でした。

